

TITLE 本当の「哲学」

2. 哲学的問題は言葉にすべきもの (ひとりふかりになるのを避けるため)

他人と共通の基盤を探す (解釈的考察態度)

自分の中のあやふやな考えをより明確

重要

「論語」

慣せれば言わす

口を動かす
慣せざれば言わす

↑
学生に教えるという意

哲学的問題はプライベートなもの

言葉にすべきもの

○ 哲学的問題の分類

1. 存在の問題 (子どもがよく考える) → 「自分もわからないから一緒に考えよう」

この世のすべてのものがこうなっていること

→ 世界、自分、善悪 など

※ 加藤 八千代

「大人とは子どもの夕暮れではないか？」

ホッホ

「5歳児が最も完璧な人間である」

2. 人生の問題 (青年の問題)

3. 社会の仕組みの問題 (大人の問題)

例: 政治思想・社会思想

マルクス... 社会主義 ←→ 資本主義
↑
生産手段

No.

DATE

TITLE

4. 死の問題 (老人の問題)

宗教

「哲学」と「思想」の相違

philosophy thought

(哲学 ... 動的 (思考を固定せず、継続する))

(思想 ... 静的 (思考を中断する))

(哲学 ... 言葉にできない)

(思想 ... 言葉にできる)

(哲学 ... 對自己 (自分で自分に問う))

(思想 ... 對他者 (他人に訴えかける))

「純粋理性批判」

「実践理性批判」

「判断力批判」

「カントはカント主義者になったのではない」

→ カントの本を読んで、内容を理解するにH

カントにこころはかのかの通物

キーワード: 「哲学」の語の由来

西周 (トシマサナ)

「philosophy」

philosophia

→ 哲学

西周 (トシマサナ)

(1829~1897)

江戸末 ~ 明治初期の

洋学者

津和野藩出身

オランダのライデン大学留学

森島外と、これに留学

(新垣)

森島外

「philosophia」の翻訳語

希賢学 → 希哲学 → 哲学

philosophia

愛智

カバカス (金米決治)

カンガレンス (法令違字)

「近思錄」に見入る語

明治10年 (1877)

東京大学で哲学科設置

儒教の教科書

明治14年 (1881)

「哲学字彙」

希賢学: 古臭い

哲学: 洋学を取り入れた新しい学問に見える

TITLE

キーワード：真実性、分析と総合

・「philosophia」の語

プラトンの定義：真実性にかの事



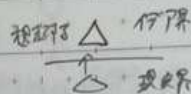
1. (哲学で本めらる) 知識とは?

→ あらわさ知識

例: 目の好き

→ とくに 真実性が好き

(本物) アイデア



二世界説

※ プラトン思想の特徴

分析的思考

(二元論)

二つの要素で物事を説明しようとする

西洋



総合的思考

(一元論)

物事を分析して そのままに理解しようとする

東洋

2. (哲学的) 愛とは

イオス

真実性を求める気持ち その性格は「狂気」 ↔ 正気

シェンクスタ「愛は盲目」

「あはれもよくは」

「愛食う虫も好き好き」

No.

DATE

TITLE

・ (正気、シャリマン)
・ 狂気

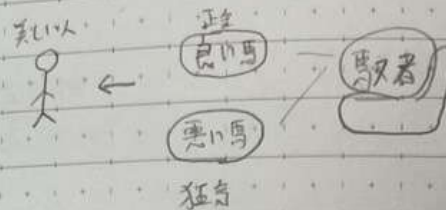
○「philosophia」の語 (2)

1. 「知識」とは

2. 「愛」とは

愛... 狂気

例 アラトンの2頭だての馬車



アラトンのように、人間の魂は、正気・狂気の両面がある。(二元論)

① 正気

肯定的側面 : 現実世界で上手くやっていける
秩序

→ 節制が必要

コントロール

例 : 無知の知

否定的側面 : 型にはめて おもひみかない

② 狂気

肯定的側面 : 狂気であって初めて 真実在が求められる
(本物)

例 コロンブス (15C) マゼラン (16C) ライオン (17C)

カリビヤ (17C) コペルニクス (16C) : 地動説

シャリマン (19C)

⇒ ドイツ 考古学者 トロイの木馬

ホメロス... 古代ギリシアの「オデュッセイア」「イリアス」

否定的側面 : 現実の世界に適応できない

TITLE

アホロン フォーの狂気
デニエリス

1. 王気 (肯定 節制
否定 おもしろくない)

2. 狂気 (肯定 勇気
否定 おもしろくない)

* ニーチェ (ドイツ) 1844 - 1900

28才: 「悲劇の誕生」

アホロン: 正統的何もの芸術家 → 秩序, 明晰, 調和

デニエリス: 狂気の 〃

→ 乱, 生命力

45才: 発狂

* フォー (フランス) 1926 - 1989

~18c 反の能力

19c ~ 20c 能力

牢屋, 軍隊, 学寮, 学校

「狂気の歴史」 「監獄の誕生」

(人々から自己を内面化して
それを自明のものとする)



No.

DATE

TITLE

西洋における 哲学上の諸問題
。西洋近代思想の黎明

古代 → 中世 → 近代
明 暗 明

。 ルネサンス

14c - 16c イタリアで始まった 古典文化復興運動

「哲学は神学の婢」
↓ 信仰
↑ 懷疑

意義

神が自立した人間による 合理的精神の確立

* 宗教改革

ルター

プロテスタント ← ローマカトリック

33

No.

DATE

TITLE

※ 心身問題の進展、変遷

自然・治物世界観

ギリシアのデモクリトス... 原子 (一粒一粒に心がある)

自然・死物世界観

例: デカルトの人体機械論 『情念論』

アニミズム

心があるのは生き物のみ

※ 心身問題の回答案

① 唯物論: 物質だけが存在する 心はエペクメン

→ 心の存在の自明性を無視

② 唯心論: 心だけが存在する 物質はスクラン

→ 物の存在の自明性を無視

③ 二元論: 物も心も存在する

→ 物と心の関係を説明するという難問が出現

④ 一元論: 同じ一つのものをあるとは「心」あるとは「物」と表現しているだけ

→ 超少派派

⑤ 主観・客観の一致問題

・デカルト (1596-1650)

フランス

キークト: 合理論, 方法的懐疑

我思う、故に我あり、

合理論

↑
経験論

合理論: 人間の理性の働きで、合理的に知識を得ようとする立場

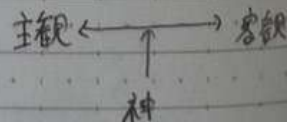
※ 主観・客観の一致のために

① 主観の确实性を確認

→ 方法的懐疑を通じて (懐疑を克己的に徹底する)

⇒ (疑はれ 我は存在する
我は我 我は存在する)

「我思う、故に我あり」



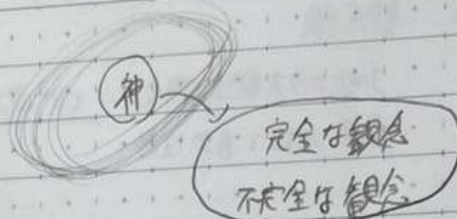
↑
自明に存在する

TITLE

キント (演繹法 経験論 (第一性質 第二性質)
帰納法

① 主観・客観の一致問題 (続)

② 神の存在証明



デカルトの弱点 ⇒ 独断論的

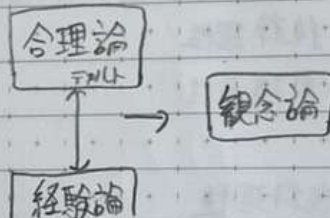
合理論 ~ 演繹法

抽象的理論から具体的事象へ

ロウ & ヒューム

経験論 : 人間は経験を通して客観を認識する
(主観)

帰納法 : 具体的事象から抽象的事象へ



1. ロック (1632 ~ 1704)

社会契約論

主観は客観を十分に認識できない

主観 → 経験 → 客観的存在

(感性) (第二性質) (第一性質 : 物体固有の性質)

心は白紙 (認識できない) (第二性質 : 物体の感覚的性質) → Xの本体

Xの存在にか

2. ヒューム (1711 ~ 1776)

主観自体を疑う

自己同一性 (アイデンティティ)

「人間は... どのような知覚の束にすぎない」

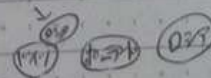
ヒュームの問題点 : 自己同一性の自明性を説明できない

経験論の問題点 : 懐疑論

・ カント (1724 ~ 1804)

(ドイツ)

ケ-ニヒスベルク 町に住む



TITLE

キーワード: 観念論

コペルニクス的転回

道徳法則と自然法則

・カント (18)

観念論

合理論と経験論の対峙

1つの理性に2種類の働き

(純粋理性)

(実践理性)

1. 純粋理性

「物自体」は一部しか認識できない → 認識できないからこそ

実践の目標になりえる

(認識の) コペルニクス的転回

⇒ 「(主観の) 認識が対象に従うのではなく、対象が (主観の) 認識に従う」

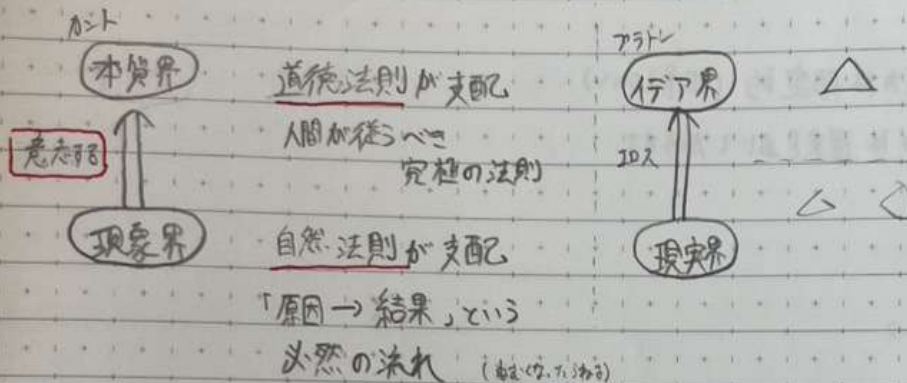
※人間はア priori に 道徳法則 が備わっている

(先天的)

TITLE

2. 実践理性

「物自体」は認識できないが「物自体」を意識することができる
そして実践することができる



例1. 満員電車で座席に座っている 譲る? 譲らない?

例2. 無罪な王様が友人を処刑 偽証する? 偽証しない?

→ 人間は道徳法則に従って「自由」を有する

◦ ベーケン (1770-1831) 神学に傾倒、宗教的

ジョージ・ヘンリエル ベーケンをボクソルに説いた

TITLE

F-7-1 弁証法 (1831)

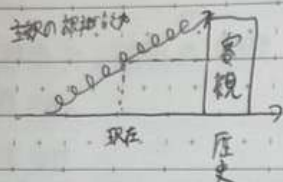
止揚 (F)

ヘーゲル (1770~1831)

1. 主観と客観の一致

カント…人間の認識能力は限定的 (成長はない)

ヘーゲル…人間の認識能力は歴史を通じて成長する

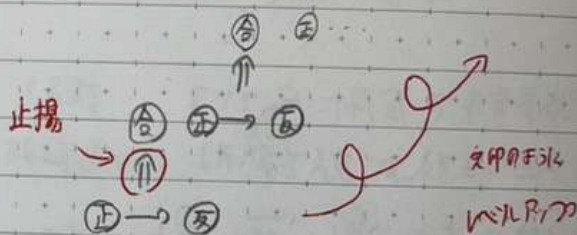


2. 弁証法

正…発展前の安定した状態

反…対立が生じた不安定な状態

合…対立が克服された新しい安定状態

止揚 (アウフヘーベン) : 対立する複数の立場をより優れた一つの立場に統一すること
上へ 上げる

主観と客観の一致を証明するのは?

→ 哲学者

「ミレラのふくろ」は黄島に飛びた

知恵

ミレラの森

→ 後期

No.

DATE

TITLE

キーワード (二元論 古代人の感性 羅生門的見方
一元論)

① 日本における哲学上の諸問題

福田伸一 (生物学者)

『世界は分けても

西洋
二元論 ← → 一元論
(分析的思考) (総合的思考)

混沌

わからない

分割

主客未分 (恍惚、渾沌)

二元論 → 還元論 一元論 → 全体論

② 古代人の思想

・ 古代人の感性

ユンク (1875~1961) 『古代人』

東アフリカの原住民をフィールドワーク → 2つあった

① 古代人は「自然に対するおそれ」をもつ (畏怖をもつ)

→ 自然 謙虚

例: 動物の序列

① ヲウ ② ライオン ③ 大蛇 ④ ワニ ⑤ 人間

② 古代人は「夢見る人」だった

夢 / 現実

抽象 具体

⇒ 一元論

境界があやふやだった

あやふや

⇒ 羅生門的見方

× 古代が偽 現代が真

× 〃 真 〃 偽

○ 古代も真 現代も真

・ 『古事記』の神名

712年 太安万侶が編纂 日本最古の歴史書

No.

DATE

TITLE

キーワード

・古代人と神名 ・ 神名 = 神 ・ 万葉集の奥名忌避

・古事記の神名

1. 神名系譜の意味

現代人 ... 無味乾燥の名前の羅列

古代人 ... 口承社会における美しい語り

※ カッシーラー (1874 ~ 1945)

「名前と本質とは ...」

ドイツの神話学者

「神名が生きた存在 ...」

神名 = 神 部分 = 全体

例1

「キリストの御名において ...」, 「~の名にかけて」

「アッラーの御名において ...」, 「シラーの名にかけて」

例2

親鸞の念仏(称名)

南無阿弥陀仏 （名）

※ 名前を呼ぶ = 相手そのものを呼ぶ ⇒ 「奥名忌避」の考え方が
→ 相手を支配下に置ける 出ている

例1: 万葉集

例2: 平安時代の女性

紫式部, 清少納言

例3: 大工と鬼大

具体 { 抽象

No.

DATE

TITLE

キーワード

(現代人の解釈)

(古代人の解釈)

言葉と神名

1. 神名系譜の意味

2. 神名自体の意味

大野 晋 説

a. アミノミナカヌシ系 (神名が抽象的)

b. ウマシアシカビヒコジ (神名が具体的)

ウマシ アシカビ ヒコジ

美し 葦芽 彦舅 = 年面20の男 (四)

x 現代人の解釈

生命力 → 葦芽

(抽象) (具体)

(原因) (結果)

o 古代人の解釈

葦の芽 = 神

cd. オモタル系 (神名が具体的)

オモタル → あなたの顔はすばらしい

アヤカンネ → べしていたたいて恐縮です

イナナキ →

イナミ →

言葉

具体 抽象

* すべて言葉が神名になる

o 言葉 (言葉のもっと具体的な力)

山上 徳良の造語

ヤマトのうみ おしろ

TITLE

o 言葉

o 言葉

オモタル

イナナキ

* アミニズム

とんなきと

例1. イナナキ

例2. 大国

例3. 海幸

* 言葉の思想

細々とて

例1. 埃工

例2. 婚れ

o 和歌の

例1. 石は

現代

古代人

No.

DATE

TITLE

・言葉 ・詩的言語

・言葉

オモハ
イナナ) 具体的なネーミング

※ アミニズム

アニム

心なにも(靈魂)があり、言葉で理解できる

英: タイト (1832-1917) の言語

例1: イナナキ・イナミ 神話

例2: 大国主神話

例3: 海幸彦・出幸彦 神話

兄 オトリ (本)

右 マホテ

※ 言葉の思想

細くともあるが、現代まで残る。

例1: 竣工式、地鎮祭

→ 神主の初詞(のり)が必須

例2: 婚礼

→ 禁句のオンパレード

× ケキを切る

○ ケーキを切る

× 宴会を終わる

○ お開きにす

○ 和歌の季節感

季節はこれが多い

推移の感覚

例1: 石はしる 垂水の上の ~

現代人的解釈: 春の到来 → わらびの芽ぶき
(抽象), (原因) (具体), (結果)

古代人的解釈: 春の到来 = わらびの芽ぶき
詩的言語「春が芽ぶいている!」

No.

DATE

TITLE

例2. 春過ぎて夏来たるらし ~

現代人的解釈 : 夏の到来 → 白衣がゆれている

古代人的解釈 : 夏の到来 = 白衣がゆれている

詩的言語 「夏がゆれている」

例3. 秋来ぬと目にほさやかに ~

現 : 秋の到来 → 風の音の変化

古 : 秋の到来 = 風の音の変化

詩的言語 「秋の音に変わったね！」

※ 日本文学への言霊の影響

キーワード

・ 尊詞

・ 二種の一元論

・ 枕詞

・ 禅の修行方法

※ 日本における言霊思想の影響

① 尊詞 : ある語句を尊くための前置きとなる言葉

・ 序詞

(5音以上)

・ 枕詞

5音

・ 季語

17音以上

② 文学ジャンルの短章化

長歌

→

短歌

→

俳句

5-7-5-7-

5-7-7

5-7-5

7-7

5-7-5

TITLE

◎ 中世人の思想

素朴な一元論

現実を無批判に受け入れるだけ

→ 現実のマネリ化

高度な一元論

現実を批判を加えたうえで受け入れる

→ 現実が目的的なものとして立ちあらわれる

・ 禅とは

1. 禅の基本的立場

教外別伝

にようけべつでん

不立文字

ふりょうもんじ

直指人心

じそくしん

見性成仏

けんしやうじやうぶつ

・ 禅の修行方法

① 只管打坐 (しかんたし) : とにかくする

呼吸が重要

② 公案

キーワード

・ 本質と分節

・ 公安の様相

・ 唐代禅と宋代禅

・ 禅の修行方法

① 只管打坐 (呼吸)

② 公案 (禅の問答)

→ 現実をよく見るため

||

本質にとらわれずに分節する。

TITLE _____

本質 ... あるものを「そのもの」にさせているもの

分節 ... くぎり、代表は言葉

全体 = 部分

⑤ 師「これは何か？」

×「杖である」... 本質にとらわれた分節だから

×「杖でない」... 目の前の事実と反するから

⑥ 師「これは何か？」

×「木切れ」とは呼べない ... 結局分節からは逃げ切れていない

○「瓶をけとばす」... 現実の实在性をはつきり示している (ただ言葉が使えていない)

⑧ 師、杖を揺り動かして

○「見よ、見よ、全世界が揺れている」... 本質にとらわれていない分節

※ 唐代禪と宋代禪

例1 「僕は何ぞだ」

2 弟「禪の核心は何か？」

(宋代) 師「座すきの七ノキ」 → 無分別の悟りの形容

弟「自己とは何でしょうか？」

唐代 師「座すきの七ノキが脱した」

(羅生門の足方)

TITLE

キーワード

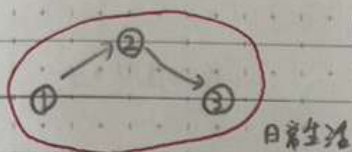
・ 三段階の発展

・ 平常心

・ 言語の独創的使用

3. 禅の理論

三段階による発展



言葉

第一段階

第二段階

第三段階

本質にとらわれない
分節

無分節

本質にとらわれない
分節

限定性

固定性

凝固性

勝負

① ①

勝ちで

負けする

→

禅

色は

②

勝ちで

負けない

→

空は

③

勝ちでも負けはない
ように負けする

→

色は

① → ② の矢印 : 色即是空

(色は)

② → ③ の矢印 : 空即是色

平常心

二) 禅は停滞を嫌う

例: 百尺の竿頭にとらえて一歩を進める

○ 道元 (1200 ~ 1253)

古代人の感性を引きついだ中世人

「文筆詩歌等、強如ものなれば、捨つべき道理なり」

14才 出家

24才 中国(宋)に留学

(語学)

28才 帰国 (通常は10年)

No.

DATE

TITLE

直元の「時間」

『正法眼蔵』

マクス

さ仏 いちく 「有時 高々峯 頂立、
有時 深々海底行...」
ある時は ×
存在の時間 ○
(悟りのある時間)
木も時なり、竹も時なり

二) 言語の独創的使用

語学の達人なら

キーワード ・ 言語の独創的使用 ・ 世界5分前創造仮説 ・ 親鸞の語

＞ 続き

言語の独創的使用

例、親鸞の語

淨土真宗、南無阿彌陀仏

「善人なおもて往生す、いかんや悪人をや」

独創的使用の理由 : 真理は自分の言葉で表現してはじめて伝わる

※ 存在する 時間

直元

有時

— 直元の見解

過

現

→ 時間

(時間常あり)

大森莊蔵

過去は 現在に存在する

ラッセル

世界5分前創造仮説

マルクス

アウリス

一瞬に於て 現在のものを生ずる

TITLE

・道元の修行

只管打坐

↓

三昧 さんまい (心が集中した状態)

↓

身心脱落 (小我が消失して 大我 にとけこんでゆく境地)
世界

例「冬軍も見えぬ雪野の白さは 大我 がすがたに身を隠しけり」
小我

※デカルト：方法的懐疑によっても、我は存在する

道元：小我は消失する

キーワード：不染汚(ふでんご)、梅花、実存

・道元の「現実をよく見る」

身心脱落

→ 不染汚 (矢入観、偏見に染まらない見方)

『正法眼蔵』 梅花

優曇花

例1. 雪裏、梅花は一現の量花なり
瞬時

他、千利休と茶室

例2. 矢師古仏いわく「……、梅開早春」
(如浄)

春の到来 → 梅花

× 梅は早春に開く

○ 梅は暗を開く

例3. 矢師古仏いわく「春は梅花に在て画圖に入る」

春をかくして花を雪く → 春をかく

花をかくして春をかく → 春はかく

・松尾芭蕉 「静けや 岩にしみいる 蛙の声」

静けさの場面を かくすの事しか 聞かない 静かな場を 静かに表現

No.

DATE

TITLE

・実存とは?

(現実存在) existence

→ かけがえのない存在として特定の状況の中で存在している自分

1. ニーチェ (1844-1900)

トイ

運命論

永遠回帰

(現実をよく見て前向きになる)

キーワード: ヤスパーズ 自由という刑

読み

2. ヤスパーズ (1883-1969)

「実存は限界状況の中ではじめて自覚される」

死・苦悶・争い

一寸先は闇

3. ハイゲル (1869-1976)

顔象 (フェイス) ... 世間の「ヒト」に紛れて自分らしさを失って生きる

↓
企図 (ニエン) ... 自分らしく生きる

4. サルヒル (1905-1980)

「実存は本質に先立つ？」

「人間は自由という刑に処されている」

→ アガ-ゾマンが必要

社会批判

実存主義の課題

生が不条理な現実であるにもかかわらず、生を充実させるために積極的に生きること

TITLE

① 中世人の

すき

(教養)

和歌

藤原定

・世阿弥

能楽の

足利義

世阿弥
流

世阿弥

芸術

X

O

TITLE

② 中世人の思想2 (世阿弥)

すき → すこび → こび
(教養)

芸術は天才
芸術家は自由狼籍

和歌

藤原定家 (1162-1241)

「紅梅征伐は吾が夢にかさず」

芸術

・世阿弥 (1363-1413)

能楽の大成者

足利義満に見いだされる

②

世阿弥

流

宝生流

喜多流

金吾流

世阿弥
流『家伝書』
美

世阿弥の目的

芸術

X 時間つぶしのためのもの

O 時間を創造するためのもの

〃

(美)を創造する

時分の花

真の花

「まこと」

TITLE
キーワード (時分の花 : 形木 真の自由
真の花)

・ 稿主と形木の確立 (続)

世阿弥『花伝書』

③

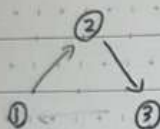
時分の花 ... 若き時の美

真の花 ... 50才を超えて保持できる美

稿主

形木 ... 型、様式、スタイル

二自三休



① 形木に従わない自己表現

② 形木に従って自己を封印する (無主風)

個性表現

↓

形木に従うことで自己を活かす (有主風)

③ 形木にとらわれない自己表現

却来

* 型の制約について

例1: 和辻哲郎「面とベリヤナ」

例2: 加地・新井の対談

自由

例3: 大鵬

真の自由 (己の欲求)

真の自由: 制約の中で、自分らしさを発現すること